

HO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸 (078) 341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1992. 2. 54号

「真宗のお寺はどいこ」

岡山江並教堂で公開講演会

江並教堂(本願寺岡山市開教センター)での公開講演会が、去る一月二十五日、開催された。今回も岡山南組十九ヶ寺の協賛を得て、同組寺院名を掲載した案内パンフレットを新聞に折り込み、都市開教センター)での公開講演会が、去る一月二十五日、開催された。

トを新聞に折り込み、都市開教センターの一環として実施初めての方も多数聴聞にいられた。講演に先立ち「真宗寺院の少ない地域であるが、潜在的な真宗門信徒のご縁を



久堀講師との話し合い

を強調しながら話された。続いて行われた話し合いでは「祟るといふことはなにか」というのは分かるが、では先祖に守られるとはどういうことか。「夢見が悪いのはどういふことか」「等々の質問に対して「私達が子や孫に対するのと同じような思いが先祖にもあるのではないかと。お墓に参るのは先祖の歩んだ道を尋ねることであり、参らな



今年の御正忌に親鸞聖人のおん前で私は思う。日本仏教の歴史において聖人ほど長い間歴史の表面から埋もれていた人はいない。一六六二人という多数の高僧の伝記を網羅した「本朝高僧伝」にもその名は載せられていない。肉食妻帯した聖人は高僧どころか僧侶の仲間にも入れない破戒僧にすぎなかったの

「仏教とは」ということの要はお釈迦様が私達に何を教えてくださったのか、ということ。日本人の仏教に対する常識を打ち砕かなければならない。よく言われる祟りなどというものは新宗教もそれを言わないものはない。誰も分からないところに責任をばせていくのがお釈迦様の教えと言えらるだろうか。お釈迦様の教えは「死に至る私の生をどう生きるか」ということであり、単に「人生をどう生きるか」と表現するだけでも現世利益中心になってしまう。本当に「生きる」ことが大事ならば突然現れて生を絶対否(2面へつづく)

教区だより

2・3月

12日(水)~14日(金) 第5回寺族婦人開法旅行	九州	27日(木) 連研のための研究会	10時半
14日(金)~16日(日) 別院常例法座	1時半	28日(金) 都市開教公開講演会 足利孝之師	北摂組正光寺
18日(火)~19日(水) 第14回教区総代表別院参拝研修会	別院	3月1日(日) 門徒推進員研修会	播磨東組妙覚寺
20日(木)~21日(金) 第15回教区総代表別院参拝研修会	別院	5日(木) 京阪神都市開教本部会議	津村別院
21日(金) 青僧会講演会	別院	7日(土) 別院仏婦役員会	10時 1時半
22日(土) 近畿ブロック寺族婦人研修会	津村別院	8日(日) 第4回若婦人の集い	10時半
25日(火) 近同推総会	京都	9日(月)~10日(火) 豊岡教堂永代教法要 和田智浄師	豊岡教堂
26日(水) 教化センター常任委員会 教化センター委員総会	10時半 1時	10日(火)~11日(水) 宮崎・兵庫両教区少年連盟交流協議会	別院

宮崎と兵庫、交流会

少年連盟が三月に神戸で

教区少年連盟(藤川正敏委員長)では来る三月十日(十一日)に宮崎教区少年連盟関係者との交流協議会を開催する。

この協議会は昨年二月に宮崎で開催された際に大きな刺激を受けた役員らの熱意により今回兵庫教区での開催となるもの。十日は午後一時から開会式の後、協議会で両教区意見発表・全体意見交換をおこない、終了後会場をタワサイドホテルに移して懇話会が持たれる。十一日は加古川の教信寺を訪れる予定。

揖尾東組で仏婦研修会

講師に籠谷真智子氏

揖尾東組仏婦連盟(福田ユキ子会長)の第六回研修会が二月十六日午後二時から、竜野市民会館大ホールで開催される。

講師は京都女子大学教授籠谷真智子(かごたに・まちこ)氏でテーマは「顕如宗主夫人、如春尼さまの生涯」。籠谷氏は昭和六年、宮崎県生まれ。同女子文学部卒業、日本中世文化史専攻。著書に「み教えの旅路に―本願寺の能楽と茶の

生前のご苦労を偲び

謹んで敬弔の意を表します。(敬称略)

城崎組徳証寺前坊守	藤本 沙尾	12月31日	93才
「徳寿院釋沙尾」			
姫路東組善行寺住職	原田 光浄	1月7日	58才
「聞心院釋光浄」			
六栗組西光寺住職	村上 義憲	1月9日	63才
「彩霞院釋義憲」			
姫路西組善正寺前坊守	井上タケ子	1月10日	92才
「順徳院釋尼正念」			
城崎組西照寺住職	平田 義隆	1月13日	57才
「西照院釋義隆」			
網干組専称寺前住職	多田 文圭	1月15日	89才
「行雲院釋文圭」			
姫路西組真光寺住職	寺谷 正憲	1月22日	73才
「眞實院釋正憲」			

お彼岸用 「法」を配つて下さい。

今年も春のお彼岸を前にご門徒向けに教化にお役立ていただけましたらと法話のページ「法」(みのり)を作りました。

昨年は年間を通して(春彼岸・お盆・報恩講)毎回二千五百部前後を教区内各地のお寺や門徒推進員さんにご利用いただき「何度でもゆっくり読み返すことができてうれしいですね」と好評です。



昨年春のお彼岸号

(一面からつづく)

定する死を避けては考えられないはず。

「仏教の原理である『縁起』とは因縁生起『存在する全てのもの・現象は因縁に依る』ということ。『因縁』とは前世の因縁という無責任な考え方ではなく、『いろいろな条件が作用して結果が出て来る』ということ。

そこで私のいのちを考えると、どんなに尊いものかを縁起の理によって知らされる。どんな人であろうと自分ひとりの力で生きていく人はいない。無限につながって行くものであり、最近よく使われる生態系という言葉はお釈迦様が『縁起』と示してくださったもの。いのちといのちとのバランス、生かされて生きるということをお釈迦様は教えてくださったのである。その生態系を乱しながら私達は生きていくのである。

「生命」と書く生物学的な命を指し、精神活動・頭脳活動・感情を含めた全人格的な「いのち」と区別することができる。もっと言えば宗教的な「いのち」とは「どんな存在も存在の意味のないものはない」のである。

一万二千人という年間の

いのちの存在とは

久堀弘義師

交通事故死者と同数の自殺者があると言われるが、遺書のない突発的な自殺が多いのは精神状況がひからびていることの表れ。仏教では、自殺は償うことのできないほどの大きな罪を犯すことである。それは「生かされているいのちであるから、いかに尊いものであるか」を示している。自分のいのちがいかに尊いものであるかに目覚めていないのが私達である。全てが尊いいのちを持っているという横の繋がりを取り戻さなくてはいけない。

「ロボット博士の仏教入門」(みかさ書房)という本に、ロボットの研究の為には人間の身体の仕組みを考えることが必要であるが、その人間の身体の仕組みを研究すればするほど、お釈迦様のおっしゃることはなるほどと知らされるばかりだ、と大学の先生が書いてある。また、その本の中に桃太郎の昔話に出てくる、犬、猿、雉にそれぞれの役

割があるという話があり、それによってお互いが因となり縁となつて存在することを考えさせられる。

もうひとつ、縦の繋がりを考えてみると、私から三十代逆上つたら、十億七千三百七十四万八千八百二十四人の先祖がいることになる。いのちの流れがいのちといのちとのバランスとなつて未来に流れていく。その縦と横の交点に私のいのちが存在する。そうすると、とても尊い尊さを持つたものが私のいのちである。

お釈迦様はこのことを私に教えてくださったのである。「一切衆生悉有仏性」とは「やがて仏縁を結ばせていただいたなら、仏となる可能性を持っている」ということであり、親鸞聖人は「十方衆生と誓われた限りは、私達は阿彌陀仏によつて救われるいのちである」とそのことを「一切有情」といふたかた。

自分のいのちの尊さがいだけた時に初めて、他の全てのいのちの尊さに気付かせていただくのである。御同朋の社会とは「いのちの共感しあう社会」であり、信心・念仏の世界は他者への共感の生き方、世界なのである。(文責在記者)

加古川組妙正寺

鹿多

晃道さん

加古川組妙正寺住職の鹿多晃道師は、明治四十二年生まれ。幼少時代より殊に音楽に

ままに口ずさんでいるうちに作曲をするようになった。そう、作曲は、心からあふれる思いが詩や曲に表

「第三集」を発表し、カセットにもなって発売されたが、「このカセットはあまり売れなかったです。」と「つこり笑いながら答える姿から、鹿多住職のやさしさとあたたかさが伝わってくる。

されど住職



讚仏歌作曲八十代でも

興味があり、オルガンをよく弾いて遊んでいた。大学時代には合唱団に籍を置き、折りに触れ思いの

れてくる」と語る。数多くの作品の中から、これまでに『うたのかご』(鹿多晃道作品集・第一集

もうひとつ、作曲のきっかけとなったのが日曜学校。宗門に日校活動が始まった頃、讚仏歌が少なく、「もっと皆と歌える歌があったら」との思いで、いつそ熱意を燃やす。妙正寺日校は、昭和二十八年以来、休まず開校している。

「時代が変わるにつれ、子どもが地域にも少なくなりましたが、続けることが大切だと考えています。これからは、若い者に期待をしております。」と讚仏歌と歩んだ人生の実感をこめて語る。先月二十三日に、住職在職五十周年の宗派表彰を受けた。

(広報部)

HOPE

◆1月1日別院修正会。

多数のご門徒が「一年の始まりをまず阿彌陀さまの前で」と参拝◆8日教務所仕事始め。「新たな気持ちで、宗務の推進に励んでください」と教務所長◆9日広報部会を別院で。どのようにすれば、多くの人に興味を持って読んで貰えるかを話し合い。「法」のページについては体裁の変更を検討しました。教区新聞は今年の八月で六十号となり、満五年を迎えます◆11日部落解放同盟兵庫県連92年新春旗びらきに担当者出席。県連では「人権が世界的キーワードとなり、部落解放運動の果たすべき役割はいへん重要なもの」と考え今年の活動を始めた◆12日姫路西組善照寺前坊守、井上タケ子氏の葬儀に教務所長参列・達書伝達◆13日14日住職在職五十年、僧侶九十歳の宗派褒賞を教務所長が伝達。受賞者は曾谷研壽住職(揖電西組専法寺)、金川

五十年と九十歳住職表彰

彰信住職(城崎組真光寺)以上住職在職五十年。池田賢達住職(赤穂南組誓教寺)森康正前住職(岡山北組妙願寺)以上僧侶九十歳◆14日16日別院常例法座。講師は森田智師(播磨東組妙覚寺)別院仏婦手づくりのぜんざいの接待もあり、参拝のみなさんで暖かなひとときでした◆16日少年連盟役員会を別院で。宮崎教区との交流協議会を三月十日11日に実施することと決定◆蓮如上人五百回遠忌についての「ご消息」発布式を本山で。教務所長出席◆17日六栗組西光寺住職、村上義憲師の葬儀に教務所長参列・達書伝達◆20日別院仏婦報恩講。輪番が法話◆21日ビハラ実践活動研究会会員総会を別院で。去る十二月十八日に行われた「まどか園」の打合せの報告と今後の対応について。平成四年度活動計画について◆22日寺婦連盟委員会を別院で。本年度これからの行事について協議。第四期連続学習会(第二回一月三十日、第三回一月十三日)第五回開

法旅行(二月十二14日)かくれ念仏の旅)近畿プロック寺婦研修会(二月二十日、講師は三木照国師、小西輝夫師、津村別院)と行事が盛り沢山。坊守さんも研修に大忙し。委員会終了後ホテルシエラで新年会が開催され、会席料理に舌づつみを打ちながら、お楽しみプレゼント交換、戴いた暖かい靴下を履いて毎朝の境内の掃除を：◆22日23日教区ビハラ担当者を本山で。22日の講義は龍谷大学講師、鍋島直樹師(神戸中組真覚寺)「これから人類以外の生命をも大切にしよう」という認識が生まれない限り人類は滅ぶだろう。「共生」を仏教の立場から訴えていくべきだ」また、この日の脳死臨調答申についての広報部のインタビューに次のように答えた。「一、今後の展望として：臓器移植は法律化されるだろう。多臓器同時移植や手足等体の一部も可能となり、どこまでが許されるかが問題。現時点では脳死について一般的には反対が多いので、提供希望者に限

脳死をどう考えるか



はちす会が新年会

って脳死認定がされる方向だろう。二十五年には外国で人工心臓ができるのでそれまでの手段が移植という見方もある。二、仏教全般的に見ると否定的である。(七割位)提供しようとする行為は崇高であるが、求める側には限度がない。(人間の間持つ煩悩性)三、個人的には：臓器提供自体は崇高な行為であり、否定しない/自己決定権が大切/私は脳死者からの臓器提供は受けたくない。(その理由として)交通事故等脳死者の出現を待つことになる。

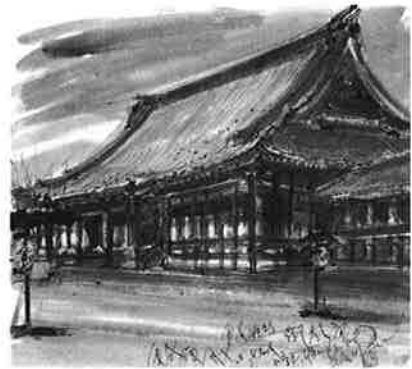
「人身受け難し/老少不定/少欲知足」等の言葉から考えると、自然の摂理の中でたまわつたいのちを生きて行くこと、いのちの現状に目を向けて生きて行くことが大切ではないか」◆23日住職在職五十周年の宗派褒賞を教務所長が伝達。受賞者は藤井正輝住職(播磨東組専心寺)、宮原一雄住職(多可組極楽寺)鹿多晃道住職(加古川組妙正寺)、曾根義正前住職(高砂組願正寺)、高原晃暉住職(姫路東組浄光寺)◆都市開教

職寺族同朋講座を妙楽寺で。講師は井上英樹師(姫路中組西徳寺)◆25日都市開教公開講演会を江並教室で。次回の公開講演会は二月二十八日、北摂組正光寺で開催されます◆神明組住職寺族同朋講座を和坂大和会館で。講師は井上英樹師◆27日播州一円の坊守有志で組織する「はちす会」の新年会に教務所長出席・法話。この会も発足以来二十三年目となり、今年も学習を一回でも多く重ね、坊守としての自覚を新たにしてみよりの輪を広げましょう」との挨拶で開会。法話を聴聞の後は懇親会も持たれた。◆28日近畿教務所長・教区会議長・組長代表者会を本山で◆30日第四期寺族婦人連統学習会(第二回)を別院で。三十五名が参加。分散会のテーマは「あなたに「縁」をどう受け取っていますか」。結婚・葬儀など、「縁」という言葉を使いながら「何かにとらわれている私達」◆姫路中組寺族婦人同朋講座を光源寺で。講師は山崎一朗師(出石組正福寺)。

一日の空過は

やがて

一生の空過



京都市・西本願寺

本堂を素通りしてませんか？

私のお寺には、本堂の裏手に小さな境内墓地があり、門徒さんのお墓が並んでいます。

そのお墓にお参りするご門徒の様子を見ると、およそ次の三タイプがあります。一つは「お墓に参る時は決まって本堂へ上がり、ご

本尊の阿弥陀さまに礼拝する」。二つ目は「本堂へは上がらないが、外から礼拝する」。三つ目は「本堂は知らん顔で素通りし、お墓だけお参りする」です。

そして、残念ながらこの三つ目のタイプが一番多いようなのです。

先日、お墓参りだけをすませて帰ろうとしていたご門徒に気づき「どうぞ本堂へお上がり下さい」と声をかけたのですが「ちよつと急ぎますので、これで失礼します」とつれない返事……。こちらの願いはなかなか通じませんでした。

もしお寺にお墓があるのなら、お墓参りの際、ぜひ本堂の如来さまに合掌礼拝していただきたいのです。

お寺の境内墓地というのは、宗旨宗派を問わない公共墓地とは違い、信仰を同じくする者がそのみ教えの道場である本堂のそばに設

けた宗教施設であり、心から敬うご本尊のおひざ元にあるお墓なのです。ちょうど如来さまに抱かれた形のご先祖のお墓があるわけ、これほど恵まれた環境の墓地はないといつてよいでしょう。

この境内墓地にお墓を建てられたご先祖のお心を思えば、如来さまに知らん顔をして本堂を素通りすることはできないはず。きつと、ご先祖は「お墓があることによつて」少しでもお寺に足を運んでくれるように、そして仏縁を深めてくれるように」と子孫に願

旧き自己に死んで

新しき自己に

生まれ変わる

われていることでしょう。

ご先祖が「親心」を込めて用意して下さったせつたかくの仏縁を無にしないよう、お願いします。

さらに言えば、我が家に帰つた時でも、また他家を訪れた時でも、親やその家の主人にまずあいさつするのが常識です。その点から言つても「まことの親」であり、ご主人である阿弥陀さまにごあいさつするのは、むしろ当然なことでしょう。

本願寺出版社発行の

末本弘然著

「仏事のイロハ」より

お仏壇・お仏具のお求めは、創業180余年の浜屋へ

大切にしたい日本の心

やすらぎのある生活
浜屋の願いです。

やすらぎの世界を創る



浜屋

- 岸和田店 (0724)45-2211代
- 和歌山店 (0722)61-2211代
- 堺店 (0722)51-2211代
- 堺もみぢ寺店 (0729)54-2211代
- 藤井寺店 (0723)37-2211代
- 松原店 (06)709-2211代
- 駒川店 (06)783-2211代
- 布施店 (0720)71-2211代
- 住道店 (0720)29-2211代
- 寝屋川店 (0726)83-2211代
- 高槻店 (0726)22-2211代
- 茨木店 (06)388-2211代
- 江坂店 (0727)53-2211代
- 池田店 (0727)75-2211代
- 伊丹店 (06)413-2211代
- 尼崎店 (0798)51-2211代
- 西宮店 (0795)65-2211代
- 三田店 (078)371-2211代
- 神戸本店 (078)621-2211代
- 新長田店 (078)927-2211代
- 明石店 (0794)37-2211代
- 加古川別府店 (0794)26-2211代
- 高砂店 (0794)43-2211代
- 高松本店 (0792)82-2211代
- 姫路店 (0790)22-2211代
- 大崎店 (0790)22-2211代
- 赤野店 (0791)62-2235代
- 龍崎店 (0791)45-2011代
- 山崎店 (0790)62-5171代
- 直営工場 (0792)93-2211代
- 大阪商品センター (06)900-2211代
- 姫路商品センター (0792)97-2211代
- 寺院工事部 (0792)22-2211代
- 保良部 (0792)88-2211代
- 内治線寺東点 (0724)45-2211代
- 之和寺 (0722)61-2211代
- 西宮常盤寺 (0722)51-2211代
- 阪和線東点 (0729)54-2211代
- 内治線 (0723)37-2211代
- 中之野 (06)709-2211代
- 石津 (06)783-2211代
- 高槻 (0720)71-2211代
- 吹田 (0720)29-2211代
- 吹田 (0726)83-2211代
- 吹田 (06)388-2211代
- 吹田 (0727)53-2211代
- 吹田 (0727)75-2211代
- 吹田 (06)413-2211代
- 吹田 (0798)51-2211代
- 吹田 (0795)65-2211代
- 吹田 (078)371-2211代
- 吹田 (078)621-2211代
- 吹田 (078)927-2211代
- 吹田 (0794)37-2211代
- 吹田 (0794)26-2211代
- 吹田 (0794)43-2211代
- 吹田 (0792)82-2211代
- 吹田 (0790)22-2211代
- 吹田 (0790)22-2211代
- 吹田 (0791)62-2235代
- 吹田 (0791)45-2011代
- 吹田 (0790)62-5171代
- 吹田 (0792)93-2211代
- 吹田 (06)900-2211代
- 吹田 (0792)97-2211代
- 吹田 (0792)22-2211代
- 吹田 (0792)88-2211代

法

みのり

墓とは聴聞への道標

お彼岸に思うこと

だいじょう
大誠

こだま
小玉



はい。平成二年九月十九日は私にとつて忘れられない人生の節目となりました。

襲い来た台風十九号が一村集中のご門徒を鉄砲洪水となつて荒らしまくり、農地と家屋を叩き、共有墓地の一角まで崩して墓碑をふつとばしてしまふ参状を露呈したからです。人々は命がけで墓碑を掘り出し白骨を収集して、これらの全ては納骨堂もない本堂の一角に預かり、今日を迎えたのです。

かくして丸々一年と半歳が過ぎました。未だ墓碑を元通りになし得ない十二戸の白骨は、本堂に預かったままになっています。十二戸の家庭は、お墓を失ったままで春秋二回のお彼岸を送つたということになります。私は奇妙な事柄に気付いたものです。

私の地方では、お彼岸になるとお墓の掃除をして必ず家族のほとんどがお墓参りする習慣があります。それですから共有墓地が復旧工事中の雑踏の最中も、被災を免れた各家庭では掃除をして、お花を供えていたものです。

そのような習慣があるものですが、私は台風の被災をひとつの

ご縁と考え、被災家庭へ向けて本堂へ足を運ばれるよう強く要請してきたものです。一夜だけですが勤修する彼岸会法座にも参られるよう特に努力したのです。

ところがこの私の呼びかけにうなずいて本堂へ足を運び、下陣中央へ膝を折つたのは半数の家庭でしかありませんでした。家庭によると、ものみごとに、慰労の集いを招集した時だけ本堂へやって来たというものもありました。

もちろん、私の意図にかなつた人はありました。法座参りをしなかつた人が年間の各法座へ足を運ぶようにもなりました。しかしそれらは限られた数の人で、多くの人々の心を変えるところとはならないでいると思われのです。

これは私という住職の不徳。赤面の至りと言う以外に何もありません。まして年の半分は布教に明け暮れてしている身ですから、自坊教化はきつちりと整えなくては嘘というものでありましよう。けれども、ここ一年半歳のこれらの行動の内側に、深く大きな民俗的宗教課題のひとつを見せつけられたような思いがしてならない

です。

平成三年の昨年、私は母方の叔父が住職の、播州路にあるお寺様の不幸に出会いました。長年病床にあつた若院が死亡し、後を追うように老婆が死亡、そして住職の叔父までが亡くなったのです。

無常の風ならば凡夫の身でどう支えましようか。一連の悲痛の中にあつて、若院の白骨収集の折の叔父の毅然を、私は深い感銘をもつて胸に受け止めたものです。

それは、宗祖聖人が「私が亡くなつたら賀茂川の魚のエサにしなさい」と申されたとありますが、そう申された宗祖聖人の内奥を、身をもつて貫くといった感のある、テンタンとした言動でした。そして娑婆の悲痛はパチパチとしばたぐ両眼の奥にひそめて、時として流れるお念仏があつたのです。

「朝には紅顔あつて夕には白骨となれる身なり」と申された蓮如様のお心を自然の形で骨肉とした叔父の姿があつたのです。

お墓とは、そのように避けて通ることの不可能な人の世の現実に直接目覚めさせてくれるもの。そこから湧き出る人の世の疑符に聴

聞を勧められる各戸個人の道標——ではございますまいか。

ところが、お墓にこそご先祖がいる、ご先祖の霊が、魂が眠っているとなるものだから、お墓を唯一のいのちの帰結と誤つて考えて大悲招喚のましますことを聴聞する耳も持たなければ、身も心も仏縁から遠ざけていくといった感があるのでしょうか。

ともあれ、墓地が広々とあつてお彼岸の都度そこへ膝を折る人の数は実に多いことです。かく申し上げる私の足元も、自坊の状況を申し上げると寒々としたものを覚えるのです。

特に台風渦にありながら、お墓には参つても本堂には参り得ない人々に思いを痛くするのです。

鳥取地方に、隆建寺というお寺様があります。ご住職との対話の中で、今は癌と闘いながら喚鐘の槿木を製作し続けている、そんな人生もあるのです。

そしてまた、あるお寺様では、若院さんが速夜参りの手みやげに一語法話の印刷物を配布なさつて、そんな人生もあるのです。

「念仏は無碍の一道なり」と申されたお心のほどを、私の人生に置き換えて味わつてみるこの頃です。

(城崎組・国正寺)